



## 「市民の皆さまに寄り添う市政を目指して」2期目2年目がスタート

### こうべ市民連合議員団の 政調会長

市議会で2期目2年目が始まり、今年度は会派の政調会長として**政務調査や、政策立案、関係団体との連絡調整**の任に就くこととなりました。

神戸市議会の、政務活動費の用途基準を厳格に遵守した上で、**政策立案や条例提案のための調査研究**に努めてまいります。



▶ 会派で北区长尾町「ふれあいの里おくっちょ」を視察

### 建設防災委員会の委員長を拝命

令和2年度の所属は**建設防災委員会**です。この委員会は、危機管理室、建設局、消防局、水道局の事業を1年間チェックしていきます。市民のみなさまが安心して暮らすための重要な室局ですので、委員会の質疑や調査を通して**神戸市政がさらに前進**するように、全力で取り組んでまいります。

また、**大都市行財政制度に関する特別委員会**にも所属し、大都市である神戸市の財政実態に即応する財源の拡充について国へ要望していきます。



▶ 建設防災委員会で円滑な議事進行をめざします



神戸市水道局  
キャラクター



## お困りの市民や事業者の方へ1日も早く支援が届くように取り組んでいます。

### 新型コロナウイルス対策について～ 神戸市へ要望!!

私たちこうべ市民連合議員団は、コロナ禍の間、市民のみなさまのお声を聞かせていただきながら、久元市長に要望をしてきました。国からの補正予算審議については、**お困りの市民や事業者の方に素早く行き渡るよう求め、神戸経済が停滞しないように可決成立**させました。

今後は第2波に備えた医療体制の強化、PCR検査体制の強化、学校へのICT化の推進など対策の強化を求めています。

### 新型コロナウイルス感染症患者（重症） 受け入れ臨時病棟が整備されます

新型コロナウイルス感染症の第2波に備えて、神戸市立医療センター中央市民病院において、新型コロナウイルス感染症患者とその他の患者の動線や診療病棟を分離（ゾーニング）し、新型コロナウイルス感染症患者への治療と、高度・専門医療の提供を両立できるよう、**新型コロナウイルス感染症の重症患者の治療をサポートする臨時病棟が整備**されます。



**要望1**  
災害時の避難所について  
マスク・消毒液等の備蓄を確保し  
ウイルス対策を講じること

**要望2**  
スパコン富岳や  
医療産業クラスターを活用し  
コロナ収束に向けた  
研究に努めること

**要望3**  
神戸市民病院機構で  
働く看護師や看護補助者を  
はじめとした医療従事者を  
増強すること

**要望4**  
生活が激変した市民の  
相談対応には、職員の体制強化で  
区役所サービスを  
向上させること

**要望5**  
学校再開時における児童生徒のケアを行う  
退職教職員等の人材を活用すること

**要望6**  
夏季の熱中症対策として特別教室や給食調理室へ  
エアコンを早急に設置すること

**要望7**  
児童生徒1人1台のタブレット端末の貸与等  
ICT学習環境の整備を早急にすすめること

## Topics 北区トピックス

### 市営地下鉄北神線となりました! 6/1から谷上～三宮間が料金¥280

北神急行が市営化されたことで料金が半額近くになりました。土日祝には親子で乗車すると同行する大人1人につき小学生



以下2人まで無料となるエコファミリー制度も適用となります。たくさんの方にご利用いただき、これからも北区の交通アクセス向上に取り組めます。

### 山田町つくはら湖畔に BE KOBEモニュメントが完成

神出山田自転車道が整備され、今秋にはシェアサイクルの試験導入の予定です。今後は、つくはら湖周辺ヘイトイレの設置等、環境整備を進めます。



### 北区に休日急病診療所が 建設されます。

有馬街道“皆森”交差点近くに今年8月着工、1月末頃完成、令和3年3月供用開始予定です。休日や夜間の急病時に北区内で診療が可能となることから、北区での医療の充実が実現します!







## 本会議にて一般質問（2020年6月26日）

1. 生活困窮者への自立支援について
2. 神戸農業の活性化と移住促進について
3. 安心して暮らせる学校づくりについて

新型コロナウイルスの影響を受けている市民のみなさまの立場で安心して暮らせるように、ポストコロナの時代も見すえた政策を提案しました



▶ 本会議で市長に質問しました

## 1. 生活困窮者への自立支援について

Q1

新型コロナウイルスの影響により、市民の生活が苦しくなり生活困窮支援の必要性は高まっている。今後も市民相談に十分対応できるよう、区役所相談窓口の体制強化をすべきと考えるがどうか？

寺崎副市長

各区の社会福祉協議会に地域福祉ネットワークを複数配置（全市で20名）し、くらし支援窓口と連携して相談にのっています。またケースワーカーも業務改善により、本来業務の保護を必要とする方へのケア、指導、支援に集中できるよう取り組んでいます。今回のコロナ禍の影響で、相談件数も大きく増加しているので、面接員の体制の見直しも含め、対応していきます。

Q2

北区にある「小さいのちのドア」は行き場のない妊婦の方をケアし、自立につなげている。今後、支援も含めて連携して取り組んではどうか？

寺崎副市長

令和2年度から、国においても悩みや不安を抱えた若年妊婦等支援事業が創設されました。本市も相談業務だけではなく、妊娠中から出産、産後まで支援するための連絡協議会を開催します。秋以降に民間事業者に委託し、支援事業を開始します。



▶ 「小さいのちのドア」永原郁子院長からお話をお聞きしました

伊藤の要望

暮らしに行き詰まった時に、区役所を頼りに相談に来られる方に丁寧な相談をしていただけるよう、市民と行政がしっかりつながるよう取り組んでください。

## 2. 神戸農業の活性化と移住促進について

Q

新型コロナウイルスの影響もあり、北区や西区の農村地域へ移住希望のニーズが高まっている。オンラインでの情報発信や、若者や女性の就農プロジェクトを展開してはどうか？

久元市長

神戸の農村・里山地域は、自然環境と文化遺産が一体的に保存されており、非常に大きな魅力を持っています。さらに磨きをかければ、多くの人々に移住の機会や訪問の機会を提供できると考えます。オンラインでの移住就農相談会を実施するなど、ICTもさらに活用し新規就農者向けの補助事業や資金貸付制度、農地の売買や賃借情報など発信していきます。東京にいる神戸市のエバンジェリストのお二人にも、神戸の農村地域の魅力発信に取り組んでいただきます。



▶ 北区に広がる農村地域の活性化を！

伊藤の要望

淡河町で9月から地域おこし協力隊による農業スクールが開校するなど、今後の農業振興の取り組みに期待します。農村地域の学校を小・中一貫校として特色ある教育をするなど、子育て世帯が移住先として選択するような取り組みや情報発信もお願いします。

## 3. 安心して過ごせる学校づくりについて

Q

学校が休業の間はもとより再開後も、子どもたちにはストレスも多く、教員は消毒作業など多大な負担が生じている。新しい生活様式の中で、児童生徒も教職員も、誰もが安心して過ごせる学校づくりに、どのように取り組んでいくのか？



教育長

生活アンケートの結果を踏まえて、児童・生徒の様子を丁寧に観察し、積極的に声かけを行い、必要に応じて個別面談を実施していきます。登校出来ない児童・生徒にはスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも情報共有し、積極的に対応していきます。学校再開後は、今年度から配置した地区統括官が、精力的に学校を巡回し、学校現場と教育委員会をつなぐ役割を果たしています。また、学校法務専門官の法的な観点からの助言などは非常に好評であり、有効に機能しています。今後も監理室により学校現場が抱える課題を丁寧に聞き取り、校長が学校をしっかりとマネジメントできるように支援しながら、学校の組織風土改革と、神戸の教育の再生に取り組んでいきます。



伊藤の要望

去年は教員間ハラスメント事案がありましたが、監理室の機能を最大限活かしながらも、教育現場の意見を丁寧に把握するボトムアップ型の改革を進めてください。

